根来山げんきの森倶楽部

令和４年９月作業日誌

　ススキの穂が風にゆれ一層秋らしくなってきましたね。
今回の作業、多少のトラブルはあったようですが、それもまた一興。台風 14 号の影響も心配されましたが無事作業を終了しました。

活動日：令和４年９月 18 日(日)　9:30～15:30　天気：曇り 倶楽部員：40 人

歴史ある手作りブロックで隙間を埋めて

炭焼き

　今回の炭焼き班は総勢１１人で、前もって炭材を詰めておいた炭窯の炭材入れ口を閉じて、炭焼の準備をすることと、炭材集めや炭材の仕分け等を行いました。
　まず最初に管理棟裏の斜面のコナラの集材から始まり、炭窯の炭材入れ口を閉じる作業。今回はＳさんが挑戦されました。
　ブロックを上手く組み合わせ、練った土で間を隙間なく埋めていき、窯に火を入れても蒸気が漏れないように塞いでしまうのですが、なんとこのブロック、その昔炭焼きの先輩方が１から手作りしたものだそう！そのブロックが今も大切に使われています。Ｓさんが順調に作業を進められている間、他のメンバーは炭材の整理や次回の炭材の準備を行いました。
　午後からは土仏線で先日行われた支障木の伐採のときに、近畿大学の学生さんたちが伐ってくれた斜面の木のうち、炭材として使えるコナラやアラカシ、ウバメガシなどの木を選んで集める作業もありました。カシノナガキクイムシの被害にあった木がまだ沢山ある森で、伐採された木を炭や薪として大切に使っていくために、今回の作業も一つ一つが大切な作業となってきます。
　力仕事や暑い寒いが付きものの野外での活動ですが、炭作りを通して森の環境の保全や親しみやすい森づくりに関われていると感じるとすごくやり甲斐がありますよ。
　みなさんもぜひ、炭窯に足を運んでみてくださいね。（森 留津）

しし威しの音を聞きながら

うるし谷整備

　今回は参加者３名。草刈り機２台とミニチェーンソー１台での作業でした。うるし谷には「森のようちえん」の子どもたちがよくやってきて、走り回って遊んでくれてます。
　広場と休憩場所のかわいいベンチの近くに立ち枯れになった大きな木があり、倒れてケガがないようにしたいとみんなで話をしていたのですが、今回行ってみると、その大きな枯れ木が見事に伐採されていました。幹が短径 45cm、長径 60cm もある大木でした。Ｙさんの話では、Ａさんと京都森林大学校に通うＭさんとそのお母さんが作業してくださったとのこと。ありがとうございました。

午前中はこの残材の整理と草刈り作業を行いました。

昼の弁当は現地で、Ｎさんが谷川の水くみ場の側に作られた「しし威し」ののどかな音を聞きながら、ヒガンバナ、ハギ、ミズヒキなど秋の風情を満喫しながら食べました。

午後は谷川の川さらえと谷川にかかっていた倒木の整理作業を行いました。植樹した木の選定作業は今回参加の伐採作業をしてくれた方とは別のＭさんが丁寧に行いました。休憩時には水くみ場からビオトープを経てうるし谷を潤している小さな流れに名前がないのはさみしいという話になり、次回以降いい名前を考えようと盛り上がっておりました。

お疲れさまでした。（西原　充幸）

悪戦苦闘するも先輩方の体力に脱帽！

ヒノキ谷の橋づくり

台風 14 号が九州に接近しており、雨が降らないかを心配しながらの定例活動。本日はＨ隊長ご不在のため、作業を実施するか否かの相談から始まりましたが、Ａ隊長代理の元、決行となりました。

ヒノキ谷の入り口付近、大谷新池から約 100mの地点に橋を造ります。現行の橋は沢に直角に架かっていますが、沢に沿って斜めに跨る新しい橋を作る計画です。これができると、急なカーブを経ず道なりに向こう岸に連結され、便利になりそうです。「テーラーが通れるように」とのオーダーもありましたが、そこまでのものになるか否かは成り行きを見守りましょう。そんな計画を阻むかのように、現地にたどり着くのも一苦労なくらいに草が生い茂り、入り口から早速、草刈機を左右に振りながらの前進です。先の話になりそうですが、道の整備も必要だと思うくらいに、尖った大きい石がゴロゴロ転がっています。

橋を渡す場所を決めたのち、それに最も適切そうな杉を切ります。切り倒すのと同時に、うまく橋の骨組みになってくれるのを期待して、倒す方向を決めましたが、僅か 10m 程度の間隔で立っている別の 2 本の木の間を狙って倒さねばなりません。大き目の重いチェーンソーを横に寝かしての伐採、悪い足場で結構時間もかかるしんどい作業、見回すとどうやら私が最年少。ここは行くしかないとその作業を買って出たところまではよかったのですが、案の定、的を外してしまい、あさっての方向に倒れてしまいました。ガーン!!!　皆さんすみません (+_+)仕事を増やしてしまいました。その後は林内作業車（通称リンナイ）投入で、目的の位置まで倒した木を引きずりまわすしかありません。Ｓさん、Ｍさんの試行錯誤で、あちこちに滑車をかけてウインチを回しましたが、相当な重量の木で、凹凸だらけの環境に引っ掛かり、木材を必要な長さに切った後でもリンナイのキャタピラが浮いてしまうほどです。

ひと段落してお昼にしようと、皆で軽トラに乗り、管理等に向かって走り出した途端「なんか変な音がするぞ」と炭焼き小屋の前でＡ隊長代理の声。なんとパンクではありませんか。あの尖った石た

ちにやられた模様。スペアタイヤに交換作業のおまけがついてきました。

腹ごしらえして、気を取り直し望みますが、午後も悪戦苦闘。しかし皆さん、どうしてこんなに体力があるのでしょうか？最年少の私が休みやすみの中、全然平気そうに作業を続ける様子には尊敬しかありません。２本の木材を平行にして橋のベースとする予定でしたが、１本目を位置決めできたところで時間切れとなり、本日の作業は終了。台風で水嵩が増して流されないかちょっと不安に思いながら、また、後々邪魔になりそうな切り株の撤去を中途半端に残したことが気になりながら、次回に持ち越しです。（楠　正暢）

風を作る装置は重たいけれど

里山整備

げんきの森に行くまでの道路の脇の、枯れたり邪魔だった木を４本ぐらい伐採した。チェーンソーの人が切って、ロープと滑車を使って木をみんなで引っ張って倒した。倒れた木は炭用に長さを揃えないといけなかったから、自分達の持ってるノコギリで 120 センチに揃えていった。だいたいクヌギで、クスノキは炭に利用できないから道の隅に集めた。みんなが道路に落ち葉をまき散らすから、僕が風を作る装置を使って道のすみまで吹き飛ばした。この装置は結構重たくてすぐ疲れたけど楽しかった。もっと鍛えないといけないと思いました。（小学６年生　楠部 蒼一朗）

10 月は衣替えの季節。げんきの森の落葉樹たちも衣替えの準備をしています。
一番気が早いのは熱帯地方が主産地のネムノキ。今頃になるとほとんど葉を落としてすでに冬支度。
ヒマラヤ南部からやってきたサクラの仲間もすでに紅葉が始まり、冬の準備です。
コナラなど他の木も少し緑が薄くなってきました。葉緑素が減ってきて、黄色の色素カロチノイドが目立ってきてるのです。
こうした季節の移ろいに触れることができるのも里山の魅力のひとつ。
今しか味わえない里山の風景をじっくり楽しみたいものです。（岡田　和久）

編集：谷藤 秀子